

# 中学校美術科における「知識及び技能」について



中学校美術科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりにとって、中学校美術科で育成を目指す資質・能力のうち、「知識及び技能」についてまとめました。日々の授業づくりにぜひお役立てください。

## 1 中学校美術科における「知識及び技能」とは？

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 美術編では、中学校美術科における「知識及び技能」について、**造形的な視点を豊かにするために必要な知識**と表現における**創造的に表す技能**に関する目標として、以下のように示されています。

対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、**表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。**

造形的な視点を豊かにするために必要な知識

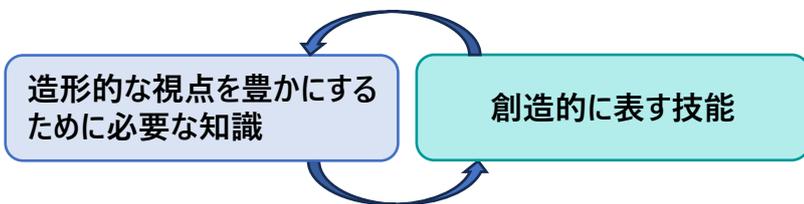
創造的に表す技能

〔共通事項〕の内容

「A 表現」(2)の内容

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 美術編」p.13 を基に作成（下線、太字は本研究による）

「知識」と「技能」は相互に関連させながら育成していくものであり、双方が関連し合っ初めて、創造的な表現が可能となります。



### 知識

中学校美術科において習得を目指す「知識」は、**造形的な視点を豊かにするために必要な知識**のことを示しており、具体的に〔共通事項〕の内容を示しています。

〔共通事項〕の指導に当たっては、表現及び鑑賞の活動を通して、生徒一人一人が感性などを働かせて様々なことを感じ取りながら、造形的な視点について理解し、表現したり鑑賞したりする喜びにつながっていくことが重要です。そのために〔共通事項〕の内容について、**個別の感じ方や考え方等に応じながら活用し、生きて働く知識として身に付けることや、新たな学習過程を経験することを通して再構築されていくことが重要です。**

#### 〔共通事項〕

「A 表現」及び「B 鑑賞」の学習において、共通に必要な資質・能力

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。

彩度が高い赤がとても美しい。



ゴツゴツする石をやすりで磨くと、つるつるに輝いて美しい。



青と水色を組み合わせると、涼しい感じだ。



造形の要素に着目して部分を見る

丸い形を連続して並べることで動きを感じる。



明暗の差を付けて立体感を表現している。



イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えること。

全体を大きく見る

見立てる

この木の葉は手に見える。



心情などと関連付ける

絵から感じられる寂しさが、夕焼けの景色を見た情景と似ている。



作風や様式などで捉える

霧のかかった景色が水墨画のようだ。



この作品は琳派の雰囲気がある。



令和4年度プロジェクト研究（中学校美術科教育研究委員会）造形的な見方・考え方について、Q3〔共通事項〕の指導のポイントは？

中学校美術科における「対象や事象」は、幅広いものを示しています。

具体的な形で表せるもの		具体的な形で表せないもの	
美術作品	造形物 自然物 など	生命感	心情 精神的・創造的価値 など

#### point

- ◎ 新たな事柄として知ることや言葉を暗記することに終始するのではなく、具体的に感じ取ったり考えたりする場面を位置付けるなどして、実感を伴いながら理解できるようにしましょう。
- ◎ 学習したことが造形的な視点として表現及び鑑賞の活動の中で生きて働くようにしましょう。

# 技能

中学校美術科において習得を目指す「技能」は、表現において、生徒自らが**発想や構想したことを基に、材料や用具などを生かし、工夫するなどして創造的に表すことができるようにする**ものです。

## 個別の技能

一定の手順に沿って材料や用具の使い方などを身に付ける個別の技能



水彩絵の具の基本的な使い方を身に付けよう。

## 創造的に表す技能

**変化する状況や課題に応じて、主体的に活用できる技能**

発想や構想をしたことを基に、表現の意図に応じて様々な技能を応用したり、工夫を繰り返して自分の表現方法を見付け出したり、更に美しく面白い表現を創り出す技能



柔らかい感じにしたいから、水の量を少し多めにしてみよう。



背景の色の絵の具が乾いた後、上から薄く別の色を重ねると、深みがある色になったよ。



筆や絵の具の水分を少なくして、バサバサした感じになるように描いてみよう。

### point

◎ 技能の習得に当たっては、個別の技能だけでなく、生徒自らが発想や構想をしたことを基に、自分の意図をよりよく表現するための**創造的に表す技能**を習得することができるようにしましょう。

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 美術編」p.13、14、22、「中等教育資料」平成30年7月号 p.51を基に作成

## 発想や構想をしたことなどを基に、表現する活動を通して身に付ける「技能」の指導について

中学校美術科における各学年の目標と、創造的に表す技能に関する指導事項とその概要について、以下に示します。

	第1学年	第2学年及び第3学年	
目標 (中学校学生)	(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができるようにする。	(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、 <u>創造的に表す</u> ことができるようにする。	各学年の知識及び技能の目標
創造的に表す技能に関する指導事項	(2) 表現の活動を通して、次のとおり技能に関する資質・能力を育成する。 ア 発想や構想をしたことなどを基に、表現する活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
	(ア) 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて <u>工夫して表す</u> こと。	(ア) 材料や用具の特性を生かし、意図に応じて <u>自分の表現方法を追求して創造的に表す</u> こと。	
	(イ) 材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、 <u>見通しをもって表す</u> こと。	(イ) 材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、 <u>見通しをもって表す</u> こと。	

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 美術編」pp.160-161を基に作成（下線は本研究による）

## 創意工夫して表す技能

意図に応じて材料や用具の特性を生かして、よりよく表す技能に関する指導事項です。生徒が、〔共通事項〕の内容に示されている造形的な要素や性質について理解しながら、材料や用具の特性を考え、意図的・効果的に生かして表すことができるようにすることを目指しましょう。

※どの題材でも指導する事項となります。

映像メディア、漫画やイラストレーション、日本及び諸外国の美術の作品などにおける多様な表現方法を学習する機会を効果的に取り入れるなどして、生徒が自分の表現意図に合う独創的な表現方法を工夫して幅広く表現活動が行えるようにする必要があります。

☞表現活動サポートQ&A Q1 「生徒が創意工夫して取り組む表現形式や技法などの指導のポイントは？」(coming soon !)

部活で打ち込んだスポーツをする姿を通して、今の自分を表す自画像にしたいな。

高まる気持ちを表現するために、背景にモダンテクニックを使ってみようかな。

漫画の効果線のような線をペンで描き、スピード感を表そう。

絵の具で着色するとき、筆のタッチを荒々しくすることで、力強さを表してみようかな。

## 見通しをもって表す技能

実際に材料や用具などを使う段階で、生徒がそれらの特性などを踏まえて描いたりつくったりする順序を考え、制作の過程を組み立てながら、表していくための技能に関する指導事項です。

制作の順序を考えるときは、材料や用具の特性を十分理解することが必要です。

※題材によって、事前に制作の順序を考えることが困難な場合は、特に位置付けない場合もあります。

どの順番で着色すると、表したい自画像になるかな。

下描きが終わったら、人物を着色する前に、背景にモダンテクニックを使うと、その後の制作がスムーズだな。

〔共通事項〕を位置付けた表現の活動において、創造的に表す技能を働かせている場面の具体例について、以下に示します。

## 〔共通事項〕と、創造的に表す技能との関連について

形や色彩、材料などが感情にもたらす効果や、心情などと関連付けて全体のイメージで捉えることを理解して技能を働かせ、表したい感じを生徒自身が意識できるようにしましょう。

柔らかい感じが出るように赤い色で花びらを塗ろう。

柔らかい光が当たっている感じを出すために、少し白を混ぜてみようかな。それとも水を多めにしてみようかな。

花びらの丸みのある形に沿って、似た色を細い筆で重ねて塗ってみよう。

※〔共通事項〕に関する内容、創造的に表す技能に関する内容を示しています。

自己の心情などと関連付けてイメージを捉えたり、自分の表現したい感じが表現されているかを確認したりして、生徒が常に自分の表現を振り返りながら制作を進めることができるようにしましょう。

丸みのある形に沿って塗ってみたら、花びらの柔らかさや丸みのある感じが出た!!  
力を入れなくて塗るのがよさそう。

白を少し混ぜて明度を高くしたけれど、何か違う・・・。



赤い色の上から、黄色を少し重ねてみようかな。水を多めにして、下に塗った赤が透けるようにして柔らかい感じを出そう。

point

- ◎ 表現の活動において、生徒が自分のもっている力を発揮しながら表現方法を選択したり、試行錯誤しながら創意工夫したりする場面を意図的に位置付け、発想や構想に関する資質・能力と、それを創造的に表す技能とを関連付けて指導しましょう。
- ◎ 題材の設定に当たっては、発達の特性に配慮し、材料や用具、表現方法などが、生徒にとって適切であるかどうか十分に検討しましょう。

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 美術編」pp.39-40、p.49を基に作成

## 2 「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」との関連について

中学校美術科における「思考力、判断力、表現力等」に関する目標は、中学校美術科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方として、以下のように示されています。

造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の動きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する

発想や構想と鑑賞の双方に重なる資質・能力

発想や構想に関する資質・能力

鑑賞に関する資質・能力

「A 表現」(1)ア、イの内容

「B 鑑賞」の内容

「A 表現」(1)ア、イの内容

「B 鑑賞」の内容

見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 美術編」p.14、p.51を基に作成（下線、太字は本研究による）

「知識及び技能」は、表現及び鑑賞の活動を通して育成する「思考力、判断力、表現力等」である、発想や構想に関する資質・能力や鑑賞に関する資質・能力と相互に関連を図りながら身に付けられるようにすることが重要です。

### 「知識」との関連

表現及び鑑賞の活動を通して、知識と相互に関連することで、表現や鑑賞に関する資質・能力を高めることができます。

〔共通事項〕  
が示す内容  
の理解

作品などに対する  
見方や感じ方を広  
げたり深めたりする

思考力、  
判断力、  
表現力等

### 「技能」との関連

創造的に表す技能は、発想や構想をしたことを基に働きます。表現の学習では、発想や構想に関する資質・能力と、創造的に表す技能とが相互に関連しながら育成されていくものであり、両者が関連し合っ

発想や構想を  
する

創造的に表す  
技能を働かせて  
形にしていく

発想や構想を  
再度見直す

構想を練る中  
で新たな表現  
方法を考える

〔共通事項〕を位置付けた表現の活動において、発想や構想をしている場面の具体例について、以下に示します。

### 〔共通事項〕と、発想や構想に関する資質・能力との関連について

※〔共通事項〕に関する内容、発想や構想に関する資質・能力の内容を示しています。両方に関わる内容の箇所があります。

#### 感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出す場面

絵や彫刻などで表す

色彩の色味や明るさ、鮮やかさなどについて理解することで、造形的な視点を豊かにし、どのような感じを表現したいのか生徒自身が主題などについて深く考えることができるようにしましょう。また、構想の場面で、生徒自身が表現したいことをアイデアスケッチなどで表すときに、余白や空間の効果や遠近感、形や色彩などの組合せによる構成美などについて理解したことを活用して、形や配色などを考えたり、主題に照らしてイメージを捉えたりしながら構想を練ることができるようにしましょう。



明るくて爽やかな感じの静物画にするには、花の色の明度を高くしたらよいか。花の色をたした方がよいか。



落ち着いた感じの立体作品にするには、どのような色や形の組合せにしようかな。

#### 目的や条件などを基に、他者の気持ちなどを考えて主題を生み出す場面

デザインや工芸などで表す

形や色彩などから感じる優しさや寂しさなどの効果を理解しながら、客観的な視点で形や色彩、材料、光などの性質や感情にもたらす効果を生かして、分かりやすさや使いやすさ、心地よさなどが他者に伝わるように生徒自身が考えることができるようにしましょう。それを踏まえて、主題に照らして調和のとれた洗練された美しさなどを考え、構想を練ることができるようにしましょう。

小さな子供が使うカップのデザインを考えよう。



全体を丸みのある形にすると、持ったときに手になじみそうだし、優しい感じがしそう。持ちやすいように大きな持ち手を両側に付けてみると、犬の顔っぽくなったなあ。犬の形のカップだと可愛い感じになるかなあ。手になじんで、落としても丈夫な材料にしよう。

point

◎ 発想や構想をする場面、創造的に表す技能を働かせる場面、感じ取ったり考えたりする鑑賞の場面のそれぞれにおいて、造形の要素の働きについて意識を向けて考えたり、大きな視点に立って対象のイメージを捉えたりできるようにし、表現及び鑑賞の学習を深めることができるようにしましょう。

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 美術編』p.22、p.45、p.49を基に作成

### 3 「知識及び技能」の学習評価について

中学校美術科における「教科の目標」と「評価の観点の趣旨」の「知識・技能」について、以下のように示されています。

教科の目標(1)
対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 美術編』p.13を基に作成

評価の観点の趣旨(1)	
知識	対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。
技能	表現方法を創意工夫し、創造的に表している。

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校美術』p.27を基に作成

#### 「知識」の学習評価について

「知識」の評価は、〔共通事項〕で示されている内容について理解できているかを評価します。

表現の学習活動では、発想や構想を基にして表現するときに、「造形的な視点を豊かにするための知識」として、形や色彩、材料や光などの性質など造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり、全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えたりするなどを理解しているかを見取ります。

鑑賞の学習評価には技能が位置付けられていないため、知識の観点で評価することが重要です。〔共通事項〕で示されている指導事項を意識し、作品など対象となるものをどのような視点で生徒が鑑賞できるようにするかを考えましょう。

〔共通事項〕の内容で示されている造形的な要素や性質について理解しながら学習活動に取り組んでいるかを、作品やアイデアスケッチ、ワークシート、発言の内容などから見取ることが必要です。

#### 「技能」の学習評価について

「技能」の評価は、造形的な見方・考え方を働かせて発想や構想をしたことを基に、意図に応じて創意工夫して表したり、見通しをもって表したりできているかについて評価します。学習の過程では、活動に必要な個別の技能が身に付いているか、材料や用具の特性を生かした表し方ができているかを見取ります。

技能は、制作が進む中で徐々に作品に具体的な形となって表れるものであるため、制作途中の作品を中心に、完成作品からも再度評価し、生徒の創造的に表す技能の高まりを見取ることが大切です。また、目標に照らして評価することが必要です。

【例】第1学年 A表現「花の生命を感じて」の技能における目標と題材の観点別学習状況より（※抜粋）

題材の目標	水彩絵の具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表す。（A「表現」(2)）	
評価規準（B）	Aの具体例	Cへの手立て
水彩絵の具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。	身に付けた水彩絵の具の生かし方を基に、表現方法の試行錯誤を重ね、表現の意図に応じて創意工夫し、よりよく表している。	具体的な筆づかいや水彩絵の具の生かし方について実演を行いながら説明し、試させたり、主題を確認させて生徒自身が表したいことを整理させたりする。

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校美術』pp.46-47、pp.51-61を基に作成

題材の目標から判断すると、「写実的に描けているからAと評価する」のではないですね。



#### 「知識・技能」としての学習評価の総括 ～表現の活動において～

〔共通事項〕の内容について生徒が実感を伴う理解をできている場合は、そのことが作品にも表れてくると考えられるため、最終的な評価として「知識」と「技能」とを一体的に評価していきます。作品の完成度だけを評価するのではなく、知識である〔共通事項〕の内容についてどのように生かして表現しているかを合わせて見取ることが大切です。

☞令和2年度佐賀県教育センター「学習評価の進め方（中学校美術科）」

☞令和4年度プロジェクト研究（中学校美術科教育研究委員会） Q8 学習評価のポイントは？

point

- ◎〔共通事項〕で示されている内容について理解し、表現や鑑賞の活動に生かして表しているかを見取りましょう。
- ◎完成作品のみでの評価とせず、多様な評価材料を活用し、制作の過程を丁寧に見取っていきましょう。

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校美術』pp.46-47、日本文教出版「もっと、知りたい!!美術の評価～理論編～」pp.20-21を基に作成